



『鉄の歴史村』

『日刀保たたら』見学の後、昨年11月の合併により名前の変わった雲南市吉田町に向かいました。以前は島根県飯石郡吉田村と呼ばれ、出雲地方屈指の鉄師、田部家の経営した『菅谷高殿（すがや たたら）』があります。

飯石郡吉田村では昭和61年に『鉄の歴史村』を宣言、昭和63年に鉄の歴史村地域振興事業団を作りました。鉄にかかわる史資料を正しく蒐集保存し、正しく公開していくことを目的に『鉄の歴史博物館』・『鉄の未来館』・『山内（さんない）生活伝承館』などの建物が建設、整備され今では歴史ある『たたら製鉄』から、鉄の未来像までが一目でわかるように展示されています。

菅谷たたらを見下ろす『山内生活伝承館』では、たたら場のようなすを写した写真や、当時の生活用具などが展示されていました。特に興味を覚えたのは『たたら炭』を焼く山子（やまこ）の作業の再現ビデオでした。炭窯の再現、炭小屋の築造、炭焼き風景、炭の搬出まで、各作業に神に祈るような所作や儀式を感じました。

斜面を降りて『菅谷高殿』へ、伝承館のおばさんがたたら製鉄の工程を熱心に説明して下さい、鉄池や大どう場、元小屋などを案内してもらいました。その後、『鉄の歴史博物館』を見学。大変勉強になりました。

昼食は博物館の近くにあった『きらく食堂』、吉田町で採れた蕎麦、野菜から手作りの漬け物など郷土料理を沢山頂きました。この見学を案内して頂いた財団の江本主任研究員・吉田研究員ときらく食堂のお姉さんに感謝！！感謝！！

『菅谷高殿（すがや たたら）』

このたたらは、天和元年（1681）の開設と伝えられ、現存する唯一のものとして、高殿も含めて、昭和42年（1967）、重要有形民俗文化財の指定を受けました。山内は、標高約350mの谷間に形成され、高殿、元小屋、米倉、炭小屋のほか、大どう場（復元）が配置されて25軒の民家で構成されています。

明治18年（1885）の記録によれば、山内の人口は34戸、158人であったといわれています。盛行をきわめた中国山地のたたらを支えた山内の状態を知ることができる現存する好例として重要です。大正10年（1921）まで操業を続けました。



鉄の歴史村 ホームページ
<http://www.tetsunorekishimura.jp/>

ホームページと電子メールをご利用ください。
URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/>
ryou@memenet.or.jp

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！